

くすり博物館だより

VOL. 52

平成16年(2004)10月

NAITO MUSEUM OF PHARMACEUTICAL SCIENCE AND INDUSTRY



内藤記念くすり博物館
〒501-6195 岐阜県羽島郡川島町竹早町1
Tel: (0586)89-2101 Fax: (0586)89-2197
http://www.eisai.co.jp/museum/

常設展の展示替え

テーマ特集◆ よりよい展示をめざして



常設展の資料展示部門のリニューアルについては春に終了しましたが、おかげさまでこの秋、体験コーナーもリニューアルの運びとなりました。

昭和61年(1986)に展示館が増設されたときの体験コーナーは、カロリー計算・アナログ式身長計と体重計・においでクイズ・紙風船だけでした。その後、身長と体重を一台で計測できる全自動身長体重計の導入を皮切りに、全自動血圧計・全身反応測定器・デジタル式握力計を設置しました。最近では来館者の皆様の関心が高い体脂肪率計や骨健康度計も導入したため、体験コーナーは大人気です。

しかし、カロリー計算はパソコンの高性能化が急速に進み、次第に計算処理が遅く感じられるようになりました。平成3年(1991)に一度タッチパネル方式に更新しましたが、今回はマークシートをスキャナーで読み込む方式にリニューアルし、大勢で利用しても結果がすばやく出るようになりました。

また、体験コーナー全体も明るくデザインし、機器の目的や使い方が一目でわかるようにパネルも新しくしました。

現在は健康に大きな関心を持つ方が多く、自分の健康データについてもより詳しく知りたいという傾向が強くなりました。体験コーナーの各種機器で計測したデータは、あくまで目安の値ですが、ぜひ一度体験いただき、ご自分の健康管理にお役立てくださいますよう、ご案内申し上げます。





江戸時代には都市の人口が増えましたが、医師の数がおいつかず、また医療費も高額であったため、手軽な売薬が製造され販売されました。また街道も整備され、大名行列をはじめ、商用や参詣の旅も活発になりました。そのため、道中携帯できる薬が求められるようになり、煎じ薬のほか丸薬や粉薬が作られるようになりました。

大陸から伝わった医薬書に基づき、治療や製薬についての研究が進んだことが、医薬の発展の理由のひとつに挙げられます。また薬研や片手切りなどの製薬道具を製造する鑄造技術が発達したり、押し出し式製丸器など新しい器械も考案されたため、薬の大量生産が可能になりました。

商売としての薬屋については、他の業種と同じように、店の主人の下に、番頭・手代・丁稚がおり、主に番頭の指示で販売や接客、仕入れ等が行われました。

▼左より番頭・手代・丁稚

戦前までは、年季奉公という制度があり、普通10歳前後から丁稚として店で住み込み、商売に必要な知識を学びながら働いた。17~18歳で手代となり、仕入れ・販売・接客などを担当し、長年勤めた手代の中から、番頭として主人から店を任される者が選ばれた。



▲薬研
39×37×31



▲伏見屋店先の様子

大阪の薬問屋街・伏見屋の様子を描いた絵を手ぬぐいにしたもの。揚げ店と呼ばれる折畳式の台が左側に描かれている。写真は、この絵を模型にしたもの。揚げ店の上に置かれているのは、出し櫃(だしびつ)と呼ばれる収納箱。



▲病薬道戯競 初編 江戸時代 23×17

さまざまな病気と有名な薬を相撲の番付風に紹介しているが、単なるリストではなく、健胃に用いられる熊膽(ゆうたん)を「熊膽治郎直愈」と人名風に表記し、「直に治る」という掛け言葉で効果をも表す等、凝った内容になっている。

江戸時代には、薬の評判は口コミで広まるが多かったと思われます。しかし、種類が増えてくると、効果が高いと評判の薬をランク付けした番付表や、有名店舗と製品を紹介したガイドブック「買物独案内」が作られるようになり、そこに掲載されることで名前が広まることもあったようです。

また、伊勢詣りや温泉への遊山のお土産として薬を持ち帰り、評判となることもあったことでしょう。薬は軽くてかさばらない上に、大きな寺社の門前町では、神仏にあやかった薬ということで、なおさら評判になったかもしれません。

資料の説明は、資料名/薬の製造元/薬の販売元/製造元の所在地・販売元の所在地/年代/サイズの順に記しました。サイズの単位はcmです。データのない部分は省略しました。

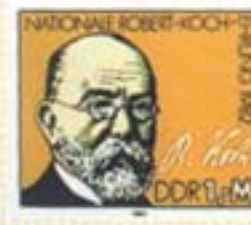
近代医学に貢献した人々



ジェンナー(1749-1823)
イギリスの医師。



パストゥール(1822-1895)
フランスの化学者・細菌学者。



コッホ(1843-1910)
ドイツの医学者。1905年
にノーベル医学賞を受賞。



エールリッヒ(1854-1915)
と秦佐八郎(1873-1938)
エールリッヒは、ドイツの
医学者・細菌学者。1908年
にノーベル生理学・医学賞
を受賞。秦佐八郎は日本の
医学者・細菌学者。



フレミング(1881-1955)
イギリスの微生物学者。
1945年にノーベル生理学・
医学賞を受賞。



フローリー(1898-1968)
フローリーはオーストリアの病理学者。イギリスの
生化学者・チェーン(1906-1979)、フレミングとともに
1945年にノーベル生理学・医学賞を受賞。

日本が鎖国を続けている頃、海外、特にヨーロッパでは、中世以降近代にかけて医薬の分野が大いに発展しました。人体の仕組みについての研究が進められたほか、手術などの技術分野や衛生観念についても進歩がありました。

薬の分野では、18世紀にイギリスの医師・ジェンナーが、ワクチン接種による天然痘予防の方法を発見し、病気を未然に防ぐ治療の道を切り開きました。19世紀には、フランスの化学者で細菌学者のパストゥールは、微生物が自然に発生するのではないことを実験によって証明しました。同じ頃、ドイツの医学者・コッホは、細菌の検査方法を発表し、また結核菌やコレラ菌を発見しました。

20世紀に入り、ドイツの医学者・細菌学者のエールリッヒが、弟子の秦佐八郎とともに、感染症の研究を行い、化学療法剤・サルバルサンを発見し、梅毒治療に貢献しました。

1928年にはイギリスの微生物学者・フレミングが抗生物質・ペニシリンを発見しました。その後フローリーとチェーンがペニシリンの分離・精製技術を開発し、大量生産できるようになりました。

現在私たちが恩恵を受けている医薬は、このような多くの研究のたまものといえるでしょう。

▶近代の医薬のコーナー

ペニシリンや各種のワクチンを展示したほか、天然痘や赤十字の携帯用薬箱、近代の家庭看護の用具なども紹介している。



薬草園から

起死回生の薬草～ヒキオコシ～

朝晩すっかり肌寒くなり、赤トンボも薬草園を飛び回る秋になりました。この時季、薬草園を見て回ると、まるで、向かいに植栽されているキク科のシオンと背丈比べをしているかのように伸びている植物があります。その植物は、ヒキオコシ(学名 *Plectranthus japonicus*)といい、北海道から九州の山野に広く自生するシソ科の多年草です。

ヒキオコシの茎は真四角で、葉は対生(葉が対になってつくこと)になっていて、上から見ると十字に重なって見えます。9月から10月に淡い紫色のちようど舌を出した口もとのような小さな花(唇形花)を多数咲かせます。このような特徴は、シソ科の植物に共通です。

ヒキオコシは、茎葉にエンメインという成分を含んでいるため、苦味健胃剤として消化不良、食欲不振、腹痛に民間薬として用いられてきました。

ヒキオコシが薬草として使われた歴史は古く、江戸時代の書物「倭漢三才図

にはその昔、腹痛で苦しんでいる旅人に弘法大師がこの草を与えたところ、たちまち回復したといういわれが記載されています。このことから、起死回生の妙薬ということで延命草とも呼ばれます。

胃の痛みには、この草を煎じたお茶が一番いいと、ヒキオコシを愛用している方がいます。その方の話では、愛知県のあるお寺で、茎葉を乾燥させて、粉末にしたものを秘伝のお茶としているそうです。

私もどのような味がするのか、試しに薬草園のヒキオコシの葉を一枚噛んでみましたが、その苦さに思わず吐き出しそうになりました。

ヒキオコシは、性質が強く夏の暑さが厳しい当薬草園でも、あまり手をかけなくても元気よく育ちます。排水の良い地層の深いところであれば特に土質は選びませんが、ほとんど種子によって行います。

ヒキオコシの同属には、日本海側に自生するクロバナヒキオコシがあり、こちらも同じように薬用にしますが、類縁のカメバヒキオコシは、苦味が少なく薬用には、あまり向かないとされます。

みなさんも、このヒキオコシの葉を一枚噛んでみてはいかがでしょうか。昔から言われるように「良薬は口に苦し」を体験できることと思います。



薬用植物園 亀谷芳明

秋の催し～ご参加ください

■もの忘れフォーラム・川島

「患者さんの過去から学ぶよりよい介護の築き方」

大正大学教授・黒川由紀子先生に痴呆症に対する正しい知識と介護のあり方についてご講演いただきます。このほかエーザイ株式会社医薬部より「痴呆とう向き合う」についてのお話やビデオの上映もあります。

11月23日(火) 勤労感謝の日 14:00～16:00

★参加無料

★定員300名

電話・FAXあるいはご来館時に口頭でお申し込み下さい。申し込み時に
①氏名 ②参加人数 ③市町村名をお知らせください。

■秋のリース教室

薬草園のハーブでリースを作ります。リース作りに興味のある方はぜひご参加ください。(雨天決行)

12月11日(土)・12日(日) 9:00～11:30

★参加費1人500円

(材料代/当日徴収いたします)

★定員各日50名

申し込み先着順です。電話でお申し込みください。(お一人様5名まで申し込み可)



申し込みは下記まで
TEL. 0586-89-2101
(火～日曜日 9:00～16:00)

■ハーブ講演会開催

10月17日(日)に、愛・地球博協賛事業としてハーブ講演会を行いました。講師には、アトリエファブル・影山むつみ先生をお迎えしました。9:00よりロビーで薬草友の会ふれあいサークルによるハーブティーのサービスを実施し、その後10:00～12:00にハーブの使い方や育成についてのお話を150名の方がうかがいました。薬草園見学時には先生に質問があいつぎました。

■薬草園フェスタ

5月15日に開催された薬草園フェスタの来場者数は1,115名でした。今年は杉の板を焼いて絵を描く焼き杉アートのコーナーや、愛・地球博のマスコットのキッコロとモリゾーを寄せ植えで作ったコーナーもありました。毎年必ず来場いただく方も増えました。来年もお楽しみに。



住所変更のお知らせ

内藤記念くすり博物館のある川島町は、11月1日に各務原市と合併をいたします。それとともない、住所変更となります。

【新住所】〒501-6195

岐阜県各務原市川島竹早町1
電話番号などは従来通りです。

■夏休みのイベント

◆夏休み親子教室(7月31日・8月1日)

31日には40名、1日には35名をむかえて、はかりの工作とポマンダー作りをしました。

◆わくわくワークシート2004(8月20日・21日)

ホームページから印刷したワークシートを記入しながら見学をするイベントで、工場見学コース・薬草園コース・博物館コースの3コースを実施しました。2日間で大人35名・子ども36名の参加がありました。

どちらのイベントにも親子でたくさんご参加いただき、ありがとうございました。当日の様子は、館内掲示やホームページでご覧いただけます。



ワークシート見学会の様子

道路沿いの看板が増えました

河川環境楽園内に、岐阜県世界淡水魚園水族館「アクア・トトぎふ」がオープンしたのにもともない、同館出口に近いT字路の交差点に内藤記念くすり博物館の看板を掲げました。アクア・トトぎふからのお帰りに、ぜひくすり博物館までお越しください。

また、国道22号線を右折する際には、中島通交差点の看板を目印にどうぞ。中島通からくすり博物館までの道路沿いには、電柱看板が2カ所あります。



薬草園の小さなイベント

薬草園では「ルバーブのジャム作り」(7月)、「レモングラスの摘み取り体験」(9月)など、少人数のイベントを開催しました。このようなイベントは、館内の掲示や薬草観察会での紹介、地元の新聞・地域情報誌などで募集をします。お見逃しなく!



◆◆資料・図書ご提供者ご芳名◆◆

岩森克介、うすき製薬株式会社、江崎俊治、大浦宏勝、大阪家庭薬協会、菅野榮子、栗本宗三郎、小竹英夫、滋賀県薬業協会、高橋雅夫、宮澤達三、長野仁、日本化学史学会、飛見立郎、ボーク文化研究所、松本明知、森ノ宮医療学園、寄金文嗣

～ありがとうございました～

(敬称略/五十音順)

内藤記念くすり博物館

開館/9:00～16:00

休館/月曜日

年末年始(12/28～1/8)

館長 藤田愛信

学芸員 植垣裕美(編集担当)

学芸員・司書

野尻佳与子・伊藤恭子

庶務 森田麻起子

小島敦子(見学受付)

沼田 望(見学受付)

薬用植物園(栽培管理)

菊谷辰行 栗本裕康 亀谷芳明

顧問 青木允夫

アドバイザー 逸見誠三郎